

# 地域とともにある



# 学校づくりを目指して

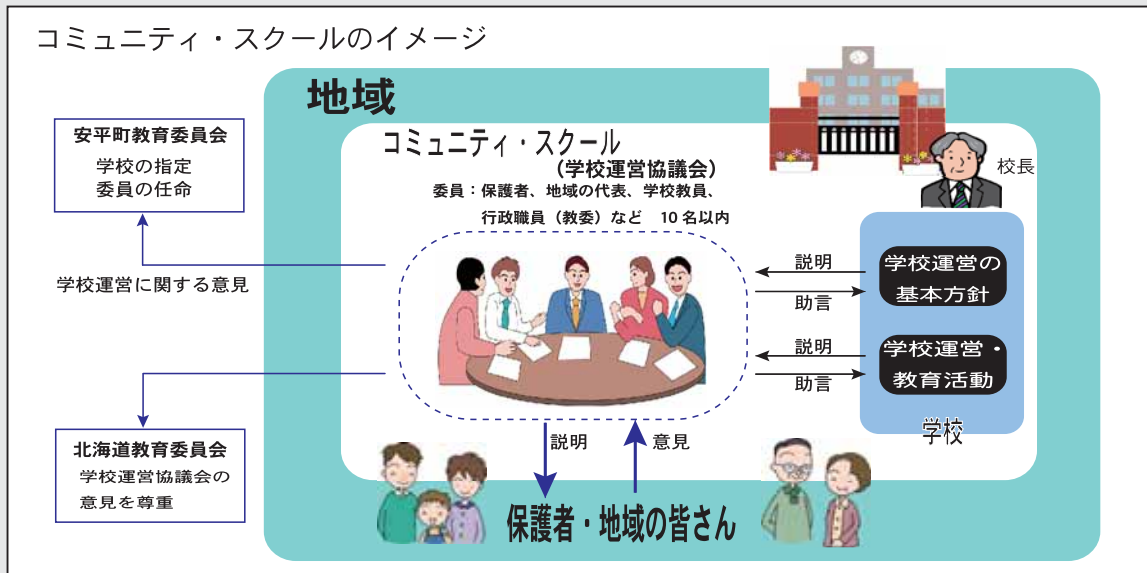


核家族化が進み、地域と子どもとの関わりが希薄になりがちな近年。町では、将来のまちづくりを担う子どもたちを健やかに育むため、学校・地域・家庭が手を取り合って子どもを育てる環境づくりを進めています。今回は、町が取り組む「コミュニティ・スクール」(学校運営協議会)を取り上げます。

## ▶コミュニティ・スクール(学校運営協議会)とは◀

校長の求めに応じて個人としての意見を述べる「学校評議員」の仕組みに比べ、学校運営協議会は、協議会の委員と学校との合議制の機関として協議しながら、学校の運営について意見を述べる仕組みとなっていて、地域住民が、一定の責任と権限を持って学校の運営に参画できる仕組み。

### コミュニティ・スクールのイメージ



## 導入の背景

町では、人・知識・自然などの地域資源をふんだんに活用して子どもから大人まで、互いに学び合う学習活動として「ふるさと教育・学社融合推進事業」に取り組んできました。

学校と地域が、学習のねらいや資源をもちよって進められてきた授業づくりは、子どもたちが自然に触れ・体験し、地域の方と交流を持つことで、学校側も抵抗なく地域を受け入れる動きが高まり、家庭・地域・学校が協働で子どもたちを育てる環境づくりを進めるものとして、この取り組みを組織的に展開する「コミュニティ・スクール」(学校運営協議会)の導入となりました。

## 町が目指す

### 学校運営協議会の活動

「家庭・地域が学校の応援団として学校づくりに貢献し、まちづくりの担い手を育成する」ことを目的に取り組んでいきます。

## 【具体的な取り組み】